

## 【議事】

### (3) SRB-A 実機大モータデータ取得試験の実施について

JAXA 宇宙輸送プログラム推進室長の有賀 輝氏が資料 25-3 (SRB 実機大モータ燃焼試験) を説明し、その後、下記の質疑応答があった。(H-IIA サブマネの中村 富久氏も参加)

森尾：横方向の推力変動はどの位あるのか。

中村：変動は 1%ほどである。これは首振りノズルなので、まっすぐに噴いた場合を想定した答である。実際の試験では首を振りながら燃焼させる。

青江：6号機で失敗があった。それを踏まえて手を打ち、成功までもって行った。その上で、これは何をしようとしているのだ。

有賀：今使われているのは改良型と呼んでいる。その場しのぎという訳ではないが、燃焼圧を下げるなどの手を施して供してきた。並行してタスクフォースで研究を続け、その成果をここで確認しようというものである。

青江：(言葉は異なるが、実質、先の質問の繰り返し)

井口：対処の方法には是正措置と予防措置がある。原理が究明できなくとも、概ねこれなら同じ事故にはならないだろうという、対症療法が是正措置である。エロージョンの原理を探求し、根本的な対策を見つけ出したので予防措置ができる。それを確認しようという試験である。

青江：これが最後の試験ということなのか。

中村：最初のフルスケール試験である。これから試験が続き、

認定試験が最後になる。H-IIA に小型補助ロケットを使う場合は目立たないが、SRB2 本のとくに打ち上げ能力が落ちるのが目立つ。これを当初の打ち上げ能力に戻したい。

青江：何回実験するのか。

中村：3 回行う。

井口：ノズルの設計能力が高まったと考えている。もちろん成功した場合ですよ。

森尾：推力変動 1%とのことであったが、周波数は。

中村：モータの気柱振動数であり、50~60 Hz である。

森尾：メインエンジンが 40 Hz で、これと重ならないか心配して質問した。

中村：連成しないように考えてやっている。